



## ○第166回 芥川賞・直木賞 決定○

- 芥川賞 砂川文次 『ブラックボックス』(『群像』2021年8月号)
- 直木賞 今村翔吾 『塞王の楯』 集英社
- 米澤穂信 『黒牢城』 KADOKAWA



## 図書館カレンダー (2月)

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					



## 今月の展示

### # 小説

文藝春秋 特集

### # 実用書

あみもの

通園・通学グッズ

バレンタイン

鎌倉時代を知ろう



## 館員おすすめの一冊

『世にも美しい三字熟語』 西角 けい子/著 ダイアモンド社

みなさんは、「三字熟語」と聞いて、いくつ思い浮かびますか? 「四字熟語」はすぐ思い浮かんでも、「三字熟語」だとなかなか思いつかないという方も多いのではないのでしょうか。これは、そんな「国語の世界でちょっと影の薄い」、けれど、とても魅力的な言葉が多い三字熟語に焦点を当てた、読むとより日本語が好きになる知識が満載の一冊です。

この本では、多彩な三字熟語を、使う場面やイメージで分け、意味や由来はもちろん、実際に使われている小説の一部を引用して紹介しています。例えば、タイトルと同じ「世にも美しい三字熟語」の章では、「朧月夜」「雪月花」「真善美」などが挙げられています。また、「人をほめる時に使う三字熟語」には、「義侠心」「麒麟児」、「思わず笑ってしまう三字熟語」には「素頓狂」「素寒貧」など。巻末では、夏目漱石と太宰治が作り出す三字熟語についてのコラムが掲載されており、知っている著作でも、読み直してみたいこと間違いなしです。

庶民的で軽妙ゆえに、日本文化の豊かな魅力が展開される三字熟語の世界に、どっぷりと浸かってみませんか。(M)



## 新刊紹介



この他にもたくさんあります!  
貸出中の本には予約ができます

『株の超入門書』	安恒理/著	高橋書店
『ヤングケアラー』	毎日新聞取材班/著	毎日新聞出版
『ろうと手話』	吉開章/著	筑摩書房
『世界史は化学でできている』	左巻健男/著	ダイヤモンド社
『小さなサクサクタルト』	キュームタルト/著	誠文堂新光社
『食べる経済学』	下川哲/著	大和書房
『近代を彫刻/超克する』	小田原のどか/著	講談社
『歓待する文学』	小野正嗣/著	NHK 出版
『愚かな薔薇』	美しくもおぞましい吸血鬼 SF 恩田陸/著	徳間書店
『教育』	ハレンチ×超能力×ディストピア長編 遠野遙/著	河出書房新社
『父のビスコ』	平松洋子の自伝的エッセイ集 平松洋子/著	小学館
『田辺聖子十八歳の日の記録』	青春期を綴った日記 田辺聖子/著	文藝春秋



## 西館日和



鬼は外～福は内～ 立春の前日である2月3日は節分です。節分には、魔除けの力があるとされる豆を、家の中や外に向けてまき、鬼を追い払います。昔は家長や年男が豆をまいていたようです。今は衛生面から大豆のかわりに落花生や小分けの袋入りの豆を、鬼のお面を付けた鬼役に向けてまいたりします。まき終わった後は、歳の数だけ豆を食べると良いと言われており、子どもの頃は「もっと食べたい」と思っていました。今では十分な数です。

豆まきと一緒に、最近ではその年の恵方に向かい、願い事をしながら太巻きずしを無言で食べる恵方巻も人気です。今年の恵方は北北西の方向だそうです。

年明けからまた、新型コロナウイルスの感染が拡大しており、図書館の利用も少し制限され、皆様にはご迷惑をおかけします。

今年の節分は、一日も早く今までどおりの生活を送れることや、安心して図書館を利用していただけるとの願い、豆を炒り(魔目を射る)、豆をまいて、恵方巻を食べようと思います。

さあみなさんも一緒に!! ～鬼は外～ 福は内～

分館長 野下